

活動の輪が広がる拡大強化月間に

～楽しくつながり、ともに輪をひろげよう～

岐阜健康友の会 会長 大塚 研二

● 定期総会の論議を力に、仲間とともに10、11月の共同組織活動拡大強化月間に取り組もう

6月9日の岐阜健康友の会第41回定期総会には、67人(多数の職員を含め)の会員が参加し、今年度の方針と向こう3カ年の計画を確認しました。この論議を力に、秋の強化月間で活動の輪を広げましょう。

● 新みどり病院の説明会を増やし、友の会の役割を伝え、建設基金の目標を達成しよう

来年5月の開院となる新病院の建設工事は順調に進み、建物を覆う防音シートも秋には取り除かれ、いよいよ新病院の姿が現れてきます。2022年度には各地で30回の説明会を開き、基金は目標の8000万円を達成しました。2023年度に入り、すでに20回の説明会を開き、病院周辺の3800件へ、友の会入会、基金の呼びかけなどのチラシのポスティングと、「健康とくらし」の手配り協力者の訪問を行いました。職員と友の会会員が共同して行ったこの行動を今後も継続しましょう。2023、2024年度の目標の達成をめざし、説明会の開催場所を増やし、友の会の加入と基金の協力、「いつでも元気」の購読を呼びかけましょう。

● 楽しく元気な地域に見える活動を展開しよう

コロナ禍で活動が困難にみまわれた支部が、定期総会以降、会員や地域の要求に応える工夫した活動に取り組み始めています。居場所のある支部は、より多くの人が楽しく参加でき地域に見える活動を広げようとしています。秋の月間では、会員、地域の未加入

の人の参加を呼びかけるいくつかの企画を計画しました。支部の状況を考慮し、支部の活動に取り入れましょう。

新病院の開院後に歯科クリニックの開設が予定されます。地域で要望などを出さう「歯科班会」を計画しましょう。

● 健康チャレンジ、健康まつり、モルック大会を行います

2023年度健康チャレンジを強化月間に先立ち9月から始めます。コロナに負けない健康増進を目指す毎年好評の企画です。達成者には図書カードのプレゼントがあります。友の会未加入の人にも呼びかけましょう。

コロナ禍で中断していた「健康まつり」を月間中の10月28日(土)に開催することになりました。新病院をアピールし、友の会の姿を見せるよい機会です。今から、各支部で要望を出し計画を立てましょう。

9月30日には、岐阜県の三つの共同組織の交流会を予定します。岐阜健康友の会、高齢者施設をつくる会、西濃医療生協です。来年9月に予定する全国の共同組織活動交流会につながるように楽しく交流する企画を考えています。

多くの支部で進められ人気のモルックの大会を11月中旬に企画します。支部対抗とし、できるだけ多くの支部の参加を呼びかけます。まだ経験のない支部も本部が援助します。

● 平和と憲法を守る学習と行動を

「戦争を二度と起こさない」「ミサイルより平和を」「軍拡より社会保障」のために学習と行動を続け、県内2番目の「九条の碑」建立の運動をすすめます。

新みどり病院に飾られる タイルアートのデザイン決定!

新みどり病院に飾られるタイルアートのデザインが決定しました。小さなお子さんから高齢の方まで幅広い年齢層からの応募があり、74名の方から95作品の応募をいただきました。

7月14日に「新病院建設推進委員会」にて、厳正な選考が行われました。素晴らしいデザインが多く、一つの作品を選ぶのに、皆さん頭を悩ませました。一つの作品が選ばれました。

作品は、2.1M×2.1Mの大きな正方形のタイルアートとなり、新病院の玄関入り口の所に飾られます。

どのようなデザインが選ばれたかは、タイルアートとして皆さんに見ていただきたくため、新病院オープンまで楽しみにして下さい。

応募していただいた作品の展示会を10月28日に開催される「健康まつり」に予定しています。すばらしい作品を是非見に来てください。



みどり健康まつりのご案内

- ◎ 日程: 10月28日(土)
- ◎ 時間: 10時~13時(予定)
- ◎ 場所: みどり病院駐車場
- ◎ 内容: 検討中

コロナ前のように開催できませんが、感染対策を実施した上で、皆さんが楽しめるような内容を検討中です。

飲食については、感染状況によって変更いたしますので、ご理解いただきますようお願い致します。

健康 春秋

「猿(日本人)を、「虚実の自由」という名の檻で、我々が飼うのだ。方法は、彼らに多少の贅沢と便利さを与えるだけでいい。そして、スポーツ、スクリーン、セックス」(S)を開放させる。これで、真実から目を背けさせる事ができる。猿は我々の家畜だからだ。家畜が、主人である我々に貢献するのは、当然の事である。・(化学物質で)病気にさせて、しかも活かし続けるのだ。これによって、われわれは収穫を得続けるだろう。これは戦勝国の権限でもある。」この、腹立たしい差別発言は、敗戦時の米国大統領トルーマンの言葉です▼戦後の学校給食に支給された米国からの脱脂粉乳の袋には「for animals」(動物用)と書かれていたと、作家の井上ひさし氏は書いています▼また戦後大統領特使として来日したダレスは「我々は日本に、我々が望むだけの軍隊を、望む場所に、望む期間だけ駐留させる権利を獲得すること」と表明し、その精神のもとに、いびつな他の国にはない屈辱的な日米地位協定が結ばれています▼このように戦後の日本は米国の従属国としての歩みであり、米国の望み通りに軍事費が増やされ、戦争する国作りが進められています▼これを変えること。一人ひとりは微力ながら、団結し、声を大きくしていくことが求められています。(K)